

『宇治拾遺物語』 「絵仏師良秀」 テスト問題

【一】本文について、設問に答えよ。

これも今は昔、絵仏師良秀といふありけり。家の隣より火出で来て、風おしおほひてせめければ、逃げ出でて、大路へ出でにけり。人の描かする仏もおはしけり。また、衣着ぬ妻子なども、さながら内にありけり。

①それも知らず、ただ逃げ出でたるをことにして、向かひのつらに立てり。

見れば、すでにわが家に移りて、煙・炎くゆりけるまで、おほかた、向かひのつらに立ちて、眺めければ、「あさましきこと。」とて、人ども来とぶらひけれど、さわがず。「いかに。」と人言ひければ、向かひに立ちて、家の焼くるを見て、うちうなづきて、時々笑ひけり。「②あはれ、しつるせうとくかな。年ごろは③わろく描ぎけるものかな。」と言ふときに、とぶらひに来たる者ども、「こはいかに、かくては立ちたまへるぞ。あさましきことかな。もののつきたまへるか。」と言ひければ、「なんでもものつくべきぞ。年ごろ、不動尊の火災をあしく描ぎけるなり。今見れば、かうこそ燃えけれど、心得つるなり。これこそせうとくよ。④この道を立てて世にあらむには、仏だによく描きたてまつらば、百千の家も出で来なむ。⑤わたうたちこそ、させる能もおはせねば、ものをも惜しみたまへ。」と言ひて、⑥あざ笑ひてこそ立てりけれ。そののちにや、良秀がよぢり不動とて、今に人々めで合へり。

問一 次の語句の読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えなさい。

①大路 ②妻子

問二 傍線部①とあるが、「それ」が指す内容を過不足なく探して、はじめと終わりの三字ずつ（句読点は含まない）を抜き出せ。

問三 傍線部②について、

(1) 「あはれ」の品詞を答えなさい。

(2) 「せうとく」とは、どういうことを指しているか。最も適切なものを選び、記号で答えよ。

ア 火事場の馬鹿力を見ることができたこと。

イ 火事が起きたときの反応を知れたこと。

ウ 火事で火がどのように燃えるかわかったこと。

エ 火事は悪いものではないと理解できたこと。

(3) その後、「せうとく」の結果として、どのように現れたのかを述べている部分を二十字以内（句読点は字数に含まない）で探して、はじめと終わりの二字を書け。

問四 傍線部③「わろく」の、具体的内容を述べている部分を十六字で探して、はじめの三字を書け。

問五 傍線部④とは、何の道か。本文から三字で抜き出せ。

問六 傍線部⑤について

(1) 読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えなさい。

(2) 現代語訳しなさい。

(3) 「わたうたち」は何をしに来たのか。本文の一語を抜き出して答えよ。

問七 傍線部⑦の部分を係り結びでない文に書き改めよ。

問八 出典を漢字で答えよ。

『宇治拾遺物語』「絵仏師良秀」解答例

【解答例】

問一 ①おおち ②めこ

問二 人の描りけり

問三 (1) 感動詞 (2) ウ (3) 良秀へり

問四 不動尊

問五 絵仏師

問六 (1) わとうたち (2) おまえたち (3) とぶらひ

問七 あざ笑ひて立てりけり。

問八 宇治拾遺物語